阪本だより

令和６年　２月　第３５２号

中央区立阪本小学校
中央区日本橋兜町 15-18
TEL.03(3666)0044　FAX.03(3668)2366

身近な自然を楽しむ④

副校長　森島健次

先日、各教室をまわっていると、2年生が生活科の授業で「いきものずかんをつくろう」の活動に取り組んでいました。タブレットパソコンを使っていきものについて調べていました。ある児童が「メジロ」について調べていたので、「以前すんでいた家の庭の木に取り付けた野鳥用の餌台にオレンジを切って置いていたらよく食べに来ていたよ。」と話しながら、今年の１月に東門の木にも２羽のメジロが遊びに来ていたことを思い出しました。阪本小にもいろいろな鳥が来ています。

身近な自然について書くのも４回目になりますが、今回は、私が阪本小学校と自宅（東京都杉並区）の間の通勤途中に見つけたいきもの（今回は昆虫に限定）を紹介します。

① 「ムラサキシジミ」
羽を閉じると茶色の蝶ですが、広げるときれいな青色です。幼虫には面白い習性があります。幼虫はお腹からミツを出してアリに与え、天敵から身を守るために長くとどまらせることができるそうです。
（自宅から最寄り駅まで歩いている途中で見つけました。）

② 「カレハガ」
動かなければ枯れ葉にしかみえませんが、羽を広げると蛾らしい目玉のような模様がついています。
（新宿西口駅の〇〇カメラの前で見つけました。）

③ 「メンガタスズメ」
ドクロ蛾、骸骨蛾の名前で知られる大型のスズメガの一種です。
（何故か、渋谷のスクランブルスクエアのビルの下にいました。）

いつもキョロキョロしながら歩いているわけではありませんが、何だろう？と不思議に思ったり、違和感を感じたときは調べてみたくなる習性が昔からあり、街路樹の幹の不自然な突起物を見つけたり、や聞き慣れない物音が聞こえたときなどは思わず立ち止まって見てしまいます。いつもの通勤経路でも新たな発見があると小さな幸せを感じることができます。

面白い東京都の取り組みがあったので紹介させていただきます。

東京都では、東京の生物多様性を守るため、「野生生物リスト（野生生物目録）」の策定に向けて都民参加型のいきもの調査を実施しています。
この度、「Biome（バイオーム）」アプリを用いた「東京いきもの調査団」の夏編に引き続き、秋編を実施いたします。夏編で投稿の少なかった地域を対象エリアとしたクエスト【注】や、アプリを用いた現地でのいきもの探しイベント（課外活動編）も実施します。

※今季のイベントは終了しています。

仮想の世界でポケモンやモンスターを見つけて捕まえるゲームもありますが、身の回りで実際にいきものを探して投稿してみるのも面白いかもしれませんね。

ご協力のお礼

先日、代表委員会が中心となって呼びかけた能登半島地震の募金へのご協力、ありがとうございました。
総額「76,336 円」を石川県に寄付させていただきました。